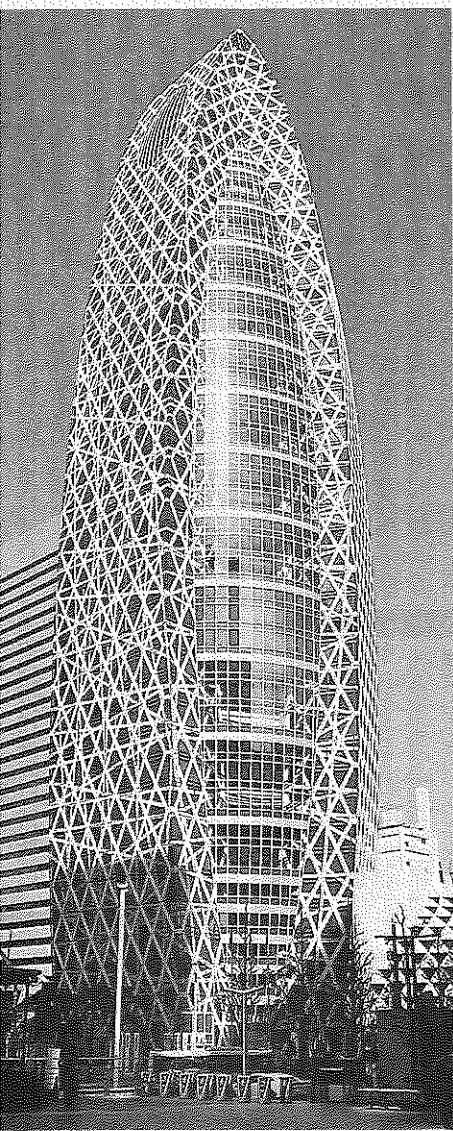


新宿駅西口一帯に立ち並ぶ高層ビル群の中で、その建物はひととき異彩を放つ。ファッション系の専門学校をはじめとする六つの専修学校や専門職大学が入る「モード学園コクーンタワー」(地上50階、高さ203.8m)。特徴的な楕円のフォルムは、その名の通り「繭(コクーン)」をイメージしている。

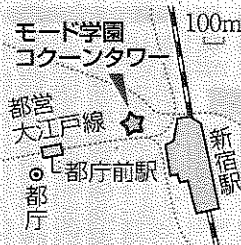
建設主の学校法人「日本



モード学園コクーンタワー

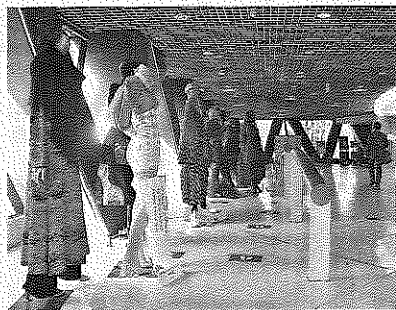
若者育む 独創的な繭

教育財団」(当時は「モード学園」)は2004年、建築に向けて「夢と創造と自由」をテーマにしたデザインの国際コンペを実施。



落成年 2008年
設計者 丹下都市建築設計
所在地 新宿区西新宿1-7-3

フランスやイタリアなど海外の設計事務所も含めて250件の案が集まったが、その中で選ばれたのが世界的建築家・丹下健三(1913~2005年)が創業し、長男の丹下憲孝氏が会長を務める「丹下都市建築設計」のデザインだった。シンプルで美しいさを持ちながら未来を象徴する繭をモチーフにした外観に、デザイン性の高い机や椅子などの内装……。デザイン決定の責任者で、日本教育財団創立者の谷まさるさん(85)は、ファッションなど



を学ぶ学生たちの感性を豊かにするような建物に仕上がったという。谷さんは「若者が夢を持って未来に羽ばたいていく」。独創的な「繭」からはそんなイメージを浮かべることができ、まさしく私たちが求めている

建物内には展示スペースもあり、学生がデザインコンテストに出品した衣装などが紹介されている

建物内の各教室には凝った意匠の机や椅子が並び、内装にもこだわりが見られる

「たデザインだった」と選考の理由を説明する。そのデザインは、米メディア大手CNNが2014年に発表した「世界で最も魅力的な校舎10」に、日本から唯一選出されるなど国内外から高い評価を受けている。東京を象徴する建物として、昨年行われた東京五輪・パラリンピックの招致ロゴの発表会場にも選ばれたこともある。

現在、タワーに入る六つの学校や大学に通う学生は約8000人になる。谷さんは言う。「我々は『環境が人を育てる』という考えを大切にしていく。この建物で刺激を受けた学生たちが、次々と世界に羽ばたいてくれることを願っている」(高田悠介)

